

授業科目名 (講義題目)	ベンチャー企業		開講学期 単位数	春学期 2単位
担当教員	五十嵐 伸吾		講義コード	科目区分 対象学生
			18176014	
開講予定日	①② 4/13 ③④ 4/20 ⑤⑥ 4/27 ⑦⑧ 5/11 ⑨⑩ 5/18 ⑪⑫ 5/25 ⑬⑭ 6/1 ⑮ 6/8 (2限のみ)			
履修条件	必須とはしないが「企業財務」、「組織論」、「戦略論」、「イノベーション・マネジメント」、「ガバナンス」、「M&A」の履修を勧める。	キーワード	アントレプレナーシップ、スタートアップ、新規事業、社内ベンチャー、ベンチャー投資	
全体の教育目標	ベンチャーに「成功の定石」は無い。個々の状況に即した最善の意思決定を行い、行動できる能力の向上を目指す	個別の学習目標	起業機会のミンチ。アイデアとしての発案、スクリーニングから資金調達、組織化など全般プロセスの理解。PBL、ケースによる疑似体験	

## 授業の概要

Schumpeter (1912) は、新規に創業した独立系の企業（スタートアップ）にイノベーションの担い手との役割を与えた。それ以降、スタートアップは、既存企業に対して競争圧力としてはたらき、市場効率化を促進する役割を果たすイノベーションの源泉の一つと考えられている。現実にテスラ、Uber、Facebook に代表されるように成功したスタートアップは、世界的企業に成長を遂げたばかりではなく、一国の経済・産業をリードする存在になっている。一方、近年、「ベンチャー」を社内に取り込み（一般に、「コーポレート・ベンチャーリング」と称される）、あるいはスタートアップへの投資を専業とするベンチャーキャピタル（VC）を企業が運営する（コーポレート・ベンチャーキャピタル：CVC）の設立も活発化している。これは企業内でいかに企業カルチャーを変革し社内から破壊的なイノベーションを実現するかを模索する手段である。

本講義では、「少ない経営資源で如何に事業を立ち上げるか」について議論することによって、新規事業の立ち上げに際するマネジメント能力の向上を目指す。

## 授業の進め方

1. 議論の密度を濃くするために春学期2コマ連続で開講する。
2. 議論の密度を高めるために、事前学習（分量は極力抑える）を求める。
3. 座学、ケース討議、ゲスト講師の招聘を組み合わせ、学生主体の双方向型で講義を進める。

## 教科書および参考図書

適宜、論文・資料等を配布する。講義全体の参考図書としては下記を推奨する。  
 ジェフリー・A・ティモンズ『ベンチャー創造の理論と実践』ダイヤモンド社、1997  
 エリック・リース『リーン・スタートアップ』、日経BP社、2012  
 アレックス・オスターワルダー他『ビジネスモデル・ジェネレーション』、翔泳社、2012

## 試験・成績評価の方法等

出席 30% …出席と講義への貢献をカウントする。  
 事前レポート 30% …講義の事前準備としてレポート（A4 2枚程度）の提出をカウントする。  
 最終レポート 40% …最終レポートを試験に代替する。（試験は行わない）